

## 令和元年度第2回県央広域振興圏経営懇談会会議録

日時：令和元年12月3日（火）14：05～16：43

場所：盛岡市勤労福祉会館 4階 401・402会議室

### 1 開会

### 2 挨拶

#### 【石田局長】

本日は、御多用のところ御出席をいただき、誠にありがとうございます。委員の皆様方、そして市町村の皆様方には、県政そして当振興局の業務推進に当たりまして、御理解、御協力をいただき感謝申し上げます。

さて、本日の懇談会では、今年度の振り返り、そして来年度の取組につきまして、案を取りまとめている。この機会に御議論をいただき、どうぞご忌憚のない御意見等をいただければと思っているので、どうぞよろしくをお願いします。

### 3 議題

#### （1）2019年度盛岡広域振興局主要施策の推進状況及び来年度の取組方向について

（岩淵副局長兼経営企画部長が資料1-1に基づき説明。）

#### 【五味座長】

ありがとうございました。

ただいま御説明いただいた来年度の方針、具体的な取組の事業内容について、あらかじめ委員の皆様からは御意見や御提言いただき、資料1-2にまとめられている。基本的には、まずこの資料に沿いながら御意見をいただき、さらに、そこに付け加えること等があれば議論の中で御発言をお願いできればと思っている。

最初に、前半では取組項目の1から5までが、主に生活に関わる分野かと思うので、まずは1から5の項目に焦点を当てながら進めていきたいと思う。

最初の保健福祉、そして文化・スポーツに関連し、健康で安心して生活し続けることができる地域社会をつくるということに関連した内容の御意見をいくつかいただいている。

それでは、臼井委員から御発言をお願いします。

#### 【臼井委員】

まず、1-（1）の保健福祉の部分について、児童や生徒の肥満というのはこの管内だけではなく、県内のいろいろなところで言われているところだが、実際、この管内の児童生徒の肥満の増加というのは何が原因で起きているのか、また、具体的な原因をきちんと調査してからこういった対策をとっているのか少し疑問に思った。

というのは、私はメタボ指導も行っていて、児童生徒の肥満対策のために講演をしてほしいと、他

の管内の市町村にお願いをされるが、では、一体そちらの市町村ではどういったことが原因でそうなっているのかと質問をすると、ちょっとそれが分からない、というように曖昧な形で返事が返ってくる。そのため、原因が分からないことには対策はとれないと常々思っていて、運動不足が原因なのか、食生活が原因なのか、何が原因なのかというところを、まず最初に調査してから対策をとるべきなのではないかと思っている。

また、子供の教育支援について、私が大人になってから気づいたことだが、自分が出た高校以外の高校に、どういった推薦枠があって、どういった大学に進学できるのかということ、大人になってから他の高校へ進学した子に聞いて分かった。もしそれが中学校の段階で、そういう推薦枠があるのか、どういう道がとれるのかというのが分かっていたら、そっちの高校に行っても良かったなど、大人になってから思った。特に子供たちの中で、今の岩手県内の中学生だと、自分の学力的に行けそうなところの一番いいところを選ぶのが多いかと思う。そうではなく、自分がその先にこういうことがやりたいというものがあるのであれば、例えば、普通高校ではなく、商業高校や工業高校に行ったほうがその道に近いんじゃないかとか、他には、こういう道を目指すから大学はここに行きたいというのがあれば、例えば推薦枠があり、特待生制度があるからお金もそんなにかからずに行けるのではないか、というようなことが中学生の時点で分かっていたら良かったと思った。

このことから、高校で何をやりたいかだけではなく、その先を見据えた進路指導というものが、小学生や中学生の時点からできればいいと思う。

### 【渡辺保健福祉環境部長】

まず最初に、肥満の関係についてだが、臼井委員のお話にあったとおり、県内の児童生徒の肥満の傾向は全国に比べて高い状況である。また、数も増加傾向であり、これは管内も同じ傾向にある。県としては、学校の協力を得て生活環境に関するアンケート調査を実施しているが、昨年度だと管内では小中高合わせて 87 校の協力を得てアンケートを実施し、もちろん全ての理由ではないと思うが、このアンケート結果から、肥満傾向にある子供には、朝食を食べていないといった子供の率、朝食欠食率が高いという傾向がある。もちろん先ほど言ったとおり、これが全てではないとは思っているが、そういったこともあり、学校と連携して生活習慣予防の出前講座という形で学校に出向き、食生活の改善を働きかけるなどの指導をして、生活習慣病のリスク要因である肥満対策には、若い頃から取り組んでいるような状況である。

次に、2 番目の子供の進学の関係について、私からは経済的な面を重視して説明したいと思う。保健福祉の分野では、子供が生まれ育った環境によって将来の選択肢が左右されることがないように、主に生活に困窮している世帯の子供を中心に学習指導を行っている。その学習指導に参加している中高生を、地域の大学や専門学校に見学として連れていき、その子供の将来を見据えた選択肢を与えるような動機づけを働きかけている。もちろん動機づけをしても、経済的な面の問題もあるため、子供だけではなく保護者に対して、奨学金など、経済的に活用ができる制度についても周知しているところである。保健福祉の分野を所管しているので、特に医療福祉の関係については、そういった分野で進学の動機づけをするために、中学生に対して、医療福祉分野で働いている方から仕事の内容を説明する機会、そして医療福祉の分野に進学する場合に使える奨学金制度や、資格取得の際に使える支援策などについても、教えているところである。

### 【田村盛岡教育事務所長】

白井委員からお話のあった、将来のことを見通して進路を選択するということが非常に重要だと思っている。管内各中学校においては、やはり子供たちの興味や関心、例えば将来の夢を何とか実現できるようにということで、日常的な教育活動全般を通じて進路指導に取り組んでいるところであり、授業の中でもしっかりと進路指導の時間をとって、様々な角度から進路について考えていくということを行っている。

また、将来の生き方を考えるということで、自分の夢を実現させる、また、自己決定をしていくということが非常に重要だと思っている。例を挙げると、実際に職場や職業現場での体験も行って、例えば、社会人や卒業生を学校に招聘しての講演会やワークショップ的な催しなど、できるだけ社会と繋がるような進路指導を心がけているところである。やはり、目的意識を持って進んでいくということは、非常に重要だろうとされていて、そういう職業観を育むよう、主体的な進路選択については、高等学校とも情報を共有しながら、指導していかなければならないと考えている。

最後に、先ほど推薦枠というお話があったが、今高等学校もかなりの学校が、かなりの回数のオープンスクールを実施していて、体験入学の中で若干ではあるが、そういったお話をしていただける高校もある。特に、私立の学校はそれが一つの目玉ともなるため、かなりの部分では可能な範囲内で子供たちにも情報提供が図られてきているのではないかと考えている。

### 【白井委員】

これからも情報提供していただきたいと思う。岩手県の場合、大学の進学率も悪いというものもあるが、その原因とは何かと考えたときに、高校のところで躓く子が多いのではないかと考えている。やっぱり自分の将来が見えないまま、とりあえず普通高校に進み、その先の勉強に躓くぐらいだったら、他の選択肢もあってよかったのではないかと、大人になってから思っていたため、そういった情報公開を私立高校だけではなく、公立高校でもできる限りしていただければと思う。

### 【五味座長】

それぞれの学校が公開するというだけではなく、例えば一覧など、全体的にこれがあれば大体把握できるというようなメディアがあると、見る方としては便利なのではないかと思う。

今のことに関して、関連する御意見はあるか。

### 【水本千恵子委員】

先ほど肥満傾向の子が朝食欠損率が高めの傾向にあるというお話があったが、それでは朝食欠食率が高い原因は何かというのは掴んでいるのか。

### 【渡辺保健福祉環境部長】

なぜ朝食を食べない子が多いかという理由まではとれていない。

### 【山屋委員】

先ほどの、高校で何を学ぶのかということが分かればいいなというところで、この前、秋田県に呼

ばれて行ったときに、秋田県から岩手県の高校を選んで来ている学生たちがいると聞いた。その理由は、学力の問題ではなく、例えば多くの人とコミュニケーションが上手くとれなかったり、何かで躓いたという理由もあったが、その高校では、担任制ではなく学生が自由に先生を選ぶことができ、クラスメートと強い関わりを持たずに個を尊重して過ごしながら、各種資格も取れるというカリキュラムがある。こういった特色ある体制の学校は秋田県にはないという話を聞いた。

盛岡にある学校なので学校名は知っていたが、担任制ではないことなどの多くの特色は知らなかった。その後、学校関係者から、例えば、不登校になりがちな子や人との関わりで躓いた子がこの学校で学び、次のステップに安心して進んでいくことができているということを知った。そういった情報は、もしかしたら必要とする学生やご家族に届いていなかったり、私立に進学するという視点がないのかもしれない。しかし、子供の多様性や将来性を考えたときに、臼井委員や五味委員がお話したようにこういった方向性のある学校だということを、高校生への情報提供だけではなく、小学校や中学校などもっと早い段階から情報提供していけば、岩手県にはこんな特色ある学校があるのかと、学生さんも広く集まると思う。もしかしたら、小さい段階から大勢の人とコミュニケーションが上手くとれなかったり、担任制が少しきついなという子が、そういった学校を選ぶことができるのではないかと考えた。

学校の点数や進学校ばかりを目にしていると分からないことや、進学校だから良いというわけではないこともたくさんある。高校生向けの学校一覧はあるが、進路先という広い意味で、卒業後の方向性が見えるものが中学生までの段階で示されれば良いと思った。

#### **【五味座長】**

保健福祉に関しては、工藤委員と平野委員からも御意見をいただいているので、御発言いただきたい。

#### **【工藤委員】**

よく出生率というのは、平均で大体これぐらいというふうに出るのだが、実際その内訳というのが、例えば子供を持たない人ももちろんいるし、それから1人、2人、3人、もっとたくさん持たれる方もいると思うが、その割合というのをどういうふうイメージしているのか、という趣旨である。

また、たくさん子供がいる家庭に対しては、それなりの支援がないとたくさんの子供を同時に育てるというのはすごく大変だと思う。そういった第3子、第4子を持つ家庭に対する支援というものを広域管内で何か考えていることがあれば教えていただきたい。

#### **【渡辺保健福祉環境部長】**

出生率の関係については、人口減少対策の流れで計画などでも語られることが多いが、結婚するしない、子供を持つ持たないを含めて、これは各個人の価値観によるものであり、県としてはもちろん、計画に出生率の目標と書いているが、どういった家庭構成がいかや、子供が何人というようなことを具体的に定めたものではない。

ただ一方で、多くの方が子供を生み育てたいという希望を持っているということも確かなので、そういった希望を持っている方が安心して地域で結婚されて、子供を生み、育てることができるように、

環境づくりということで妊娠から出産、そして子育て期まで切れ目のない支援ができる体制を市町村と協力して作っていかうと思っている。また、民間でも子育てについて配慮する企業が増えてきたので、企業さんの取組を支援したり、官民併せて地域全体として、子育てに優しい地域を作っていきたい。その結果として、子供たちが一人でも多く生み育てられるような形になってくれれば良いと思っている。

また、確かに子供の数が多くなれば経済的な負担が大きくなるので、子供の数を控える理由として、経済的な理由というのが結構大きな率を占めるのは確かなことなので、児童手当などについても、第3子以降については増額されるなどの措置はあるが、県独自としての第3子、第4子に対する措置ということに関しては、他県ではもうやっている例があるが、当県としてはこれから調査研究していく段階になっている。

### 【工藤委員】

私も実は今子供が3人いるが、子供が増えてくると経済面もそうだが、子供を持っておいてこういふことを言うと怒られるかもしれないが、人間の面倒を見るというのはそれなりに大変で、例えば共働きなんかになってしまうと、どうやっていったらいいのだろうというところもたくさん出てくると思う。そういった場合のケアみたいなところを、例えば岩手県内だと花巻市が随分そういう取組をされているかと思うが、そういったいい取組を、できれば岩手県全体として広げていっていただきたい。

### 【平野委員】

私は普段、企業や組織向けにコーチングを中心とした人材育成やコミュニケーションの研修をしている。そうすると、例えば職場で鬱になる方が出ないようにとか、少し発達障がいのようなところがあったとしても、その人の多様性の範囲で働いていけるような、個々の能力などに対応して育成ができるようなところで、普段サポートをさせていただいている。その中で最近、私は医者ではないので診断ができるわけではないのだが、少し境界を越えているかなというような感じの職員が職場にいてその方とどう対応したらいいとか、実際に仕事をする上で非常に困っているので、企業側からすると雇用していくのも大変なのだがどうしたらいいのか、という相談がある。私はカウンセラーもするのだが、より専門的なところに繋いだりするケースが結構増えていて、知り合いのカウンセラーと境界にいる方が増えているよねということをつい最近話したところである。

データがあるわけではないが、生活困窮者の方の中にはそういう方の割合が多いと聞いたことがある。実際に組織の中でも多少障がいとか疾患があったとしても、それに対応できるシステムや組織内の環境を整えたり、あとはそういう方にどう対応したらいいかというノウハウがあると、退職せずに普通の雇用状態のまま働き続けられるケースもあるのではないかと思うが、組織側にそのノウハウがないので、結局周りの方から白い目で見られて退職せざるを得なくなるとか、実際に会社に来れなくなってやめてしまうというケースがあり、結局その後に生活困窮者になる可能性が増えてしまうということである。なので、その本人が困った時にどこへ相談するかという情報も必要だと思うが、そういう方を抱えている組織がまず初期に発見した段階で誰に相談するとか、あるいはできれば組織全体で対応できればいいが、そういう方にどういうアプローチをすると幾らかでも同じような環境で働いていけるのか、というあたりのノウハウなどの周知があるといいなと思っている。

### 【渡辺保健福祉環境部長】

今平野委員のお話にあったとおり、生活困窮者の面でいくと、民間のシンクタンクの調査によると精神的な疾患やメンタルに問題を抱えた方、こういった方が生活に困窮されている方が多いというような調査結果があり、またその調査の中で精神的な疾患やメンタルが原因で最初の就職に失敗してしまっていて、それが原因で引きこもりや生活困窮に陥っていくという、そういったきっかけになることが多いというのは確かである。

我々としても、そういった方が様々な生きにくさを抱えていらっしゃると思うが、そういった方がなかなか見えにくいというのが実態である。例えば、振興局の各部の職員が様々な形で仕事をしているわけだが、そこで見聞きした、あるいは接した方でそういった生きにくさを抱えた方がいらっしゃったら、こういったところへ相談に行ってくださいというような形で早期に発見して、早期に支援に繋げるというような連携体制を今年から作っていくことを努力している。また地域においても、これまで生活困窮者に対する支援はどうしても行政中心のものだったのだが、そうすると行政まで来てくれる方は支援できるのだが、来ない方が分からないということで、民生委員とかもう少し幅を広くして、そういった方たちを巻き込んで早期発見し、早期に発見すれば早期に発見しただけ立ち直りが早いというデータもあるので、そういった方向で今取り組んでいる。

また、企業の方についても、健康経営に取り組んでいる企業は、これまで体の健康から始まっているが、最近はメンタル面での心の健康まで含めた健康経営に努力されている企業が増えている。あるいは、我々のところにそういったメンタル面での講座もしてほしいというような要望もあるので、保健師などが企業に出向いて、体だけではなくて心と体の健康づくりというような形で出前講座をさせていただき、体の不調のサインであるとか、その対処方法、あるいはどこに相談すればいいのかといったことを企業の方、あるいは従業員の方に御説明している状況である。こういった取組をこれからも一生懸命やっていこうと思っている。

### 【平野委員】

組織向けのアプローチとして、割と大きめの会社だと対応ができる余地というか、体力もあると思うが、相談いただく会社というのは大体中小企業で、人数が5～6人程度であり、この人にやめられると困るがどうしたらいいか、という感じになっている。どちらかという小さい事業所の経営者の方とか事業主の方向けにそういう情報がいくとよりいいのではないかと思うので、今後もよろしく願います。

### 【五味座長】

次に、環境分野に関して八重畑委員から御意見を3点いただいているので、説明をお願いします。

### 【八重畑委員】

環境について、3点書かせていただいた。

まず、私は盛岡広域の水環境の会議の方にも出る機会があり、りば〜るくんのパートナー支援についても少し存じているが、環境学習に取り組む人材は60代や70代とかなり高齢の方が多いので、新しい方を育てるとするのは大変重要な事業だと思っている。ただ、育てていってメンバーが増えてい

くことはいいことなのだが、そのメンバーの方がどういうスキルを持っているのか、そして、そのスキルを生かすにはどこに依頼すればいいのか、来て欲しいと言った時に誰を派遣すればいいのかというような、どこを誰に結びつけるかという部分でチームというものができていって、活躍するフィールドなども情報として収集できるようになったらいいのではないかと思います。

続けて、パートナーを作るに当たって、現在は平日に内容が組まれていて、その理由としては企業向けということで平日を選んだと回答を得たが、やはりそれでは義理で出ているとか、そういう形で参加メンバーが偏ってくる。大学生や教員を目指している方、また実際に働いている教員の中でもそういう自然環境に関心のある方なども参加できるように、例えば夏休み、冬休みを活用した日程を組んではいかがか。

また、現在私は環境学習を毎回、年に2回継続して取り組んでいて、それ以外にも企業と一緒に取り組んでいる事業もあるのだが、参加者を増やすため学校にチラシを配付したり、広報などで知らせたりしているのだが、こちらでアピールや働きかけをしても子供たちが忙しくて、参加する人数というのは非常に限られてくる。関心がある子供たちにとっては親御さんたちもそれを組み込んで一緒に参加してくれたり、親自身が関心があると参加したりするのだが、非常に参加する人は限られているので、実際にこれから自然を守ったり、自然の豊かさを肌で感じたり、多くの子供たちが豊かな自然に触れるためには、教育現場で平等に自然はすごいと感じられるような機会が与えられたらいいと思っている。

ここには書かなかったが、地元には環境学習に取り組んでいる学校があり、先日、そこで植林した後の里山を見に行く機会があったが、当方のメンバーが説明をしたときに、とてもすばらしい子供たちの感想が来た。手入れしないとこんなに山というのはかわいそうなのだとか、私も何とかして手伝いたいとか、本当に自然に触れた生の子供たちの体験の声が聞けたので、紹介させていただいた。

### 【渡辺保健福祉環境部長】

いつも当部の活動に大変な御協力をいただき、ありがとうございます。

今八重畑委員のお話にあったとおり、当部の事業として、りば〜るくんの郷づくりパートナーの養成及び人材育成をしていて、昨年は10名、今年は4名ほど認定したところではあるが、認定したパートナーが具体的にどこで活躍できるのかというようなところを提供していかないと、ただ養成ただけで終わってしまうというような危機感を持っている。このことから振興局は盛岡広域管内でパートナーを養成している協議会の事務局を担っており、振興局において情報提供や支援を必要としている学校とのマッチングなどをしていきたいと思っているので、もしそういったお話があったら当部にお話をいただければ頑張ってやっていきたいと思っている。

また、これまでは企業の活動というのは地域貢献として、環境保全活動を一生懸命取り組まれている企業から派遣という形で参加される方も多かったこともあって、アンケートの結果、平日の開催希望となったところである。ただ、先ほども話したとおり、一昨年10名だったものが今年4名と減ってしまい、我々としても、もっと幅広い世代を捉えていかなければいけないという問題意識を持っていて、八重畑委員のお話にもあったような学校の生徒だとか、そういった人たちに参加してもらるように学校の長期休みや学校行事に考慮したカリキュラムを少し検討していきたいと思っている。

それから子供たちに伝える関係だが、話したとおり子供たちに自然環境のすばらしさを教えていく

機会というのを安定的に継続していくためには、やはり学校と繋がるのが我々としても一番大切だと思っている。実際我々が支援させていただいている学校が、もう一回学校の授業や行事として取り組まれると10年、20年というスパンでいい活動をしていただいているところがあるので、そういった学校と、パートナーが支援できるような形で何とか協力関係ができないかなということ今取り組んでいる最中である。

### 【五味座長】

それでは続いて、地域づくりの項目のほうに移っていききたい。地域づくりには関心がある方が多いと思うが、5件の御意見をあらかじめいただいている。

それで、特に3番というのは地域コミュニティだけの話ではないのだが、現在の地域コミュニティの課題解決のためにということで8番、9番、11番が少し関連すると思われるので、臼井委員、工藤委員、水本委員、八重畑委員から御意見を願います。

### 【臼井委員】

地域コミュニティの機能低下が危惧されていて、コミュニティの維持、活性化に向けた取組が必要と書いてあるにも関わらず、年1回の研修会のみしか書かれていないのだが、これ以外のことは何か取り組まれているのか。今年度30人の方がこの研修会に参加されたということだが、ここからの発展というところにまで関わっているのかというのが少し疑問である。

### 【工藤委員】

先月、岩手大学さんで災害文化研究会という研究会が開催されていて、その中で3.11の震災以降、みなし仮設住宅という形で盛岡市内でも沿岸部から移住されてきた方たちの住まいについて、現在集合住宅という形で行っているが、その地域のコミュニティというのは非常に難しい。元々住んでいた住民の方と、色々なところからバラバラに集まってきた方たちが、一緒のコミュニティをこれから作ろうとしているということで、おそらく色々な課題が出てきているとは思いますが、そういう事例などが上手く共有できると非常に地域づくりの参考になるのではないかと思います。

### 【水本千恵子委員】

先ほどのお話の中で、子供を生み育てられる環境づくりということで、支援を強化していきたいというお話があった。ところが、行政や企業ではそういった動きがすごく改善されてきているように感じるが、地域コミュニティではまだまだ女性を取り巻く環境としては厳しい状況があるのかなと感じている。

これは全市町村ではなくて、私が今いる紫波町の話になるのかもしれないが、私たちのところにはまだ女性のみが加入する地域組織というものがある。交通安全母の会、婦人消防協力会、母親委員会、母親クラブなど、女性や母親を特定した活動というものがある。それから、自治会や町内会においても婦人部や女性部といった女性がやるものだよというような部が未だに町内会を見てもある。もちろんそれが適材適所で活動しているところもあるが、一方で若いお母さんたちにはそれがすごい負担になっているという声も私の方では大分聞くことがある。このことから、今地域の中でワークショップ



をしながら、いろいろ話をして改革を推し進めているところだが、そういったことがまだまだ多い。県のこういった会議の場では、そういったこともなく女性の方が多かったり、若い方も参加されたりするが、自治会などではまだまだ物事を決めるときにはどうしても高齢の男性が中心となって決めるという状況である。

今は男性が働いて、女性が家庭を守るという時代ではない。男女で社会や家庭を支えるという時代になっているので、これは振興局の取り組むことではないのかもしれないが、ぜひ皆さんの方からこういったことを地域や今自治会を支えている年代の方々に届くようなメッセージを発信していただきたい。社会全体が本当に自由な形で、子供を育てているお母さんやお父さんたちを上手に支えられるような仕組みやそれを啓発していく取組をしていただきたいと思います。

### 【五味座長】

いずれも地域コミュニティをいかに良くしていくかということかと思うが、いかがか。

### 【岩淵副局長兼経営企画部長】

最初に、年1回の研修会以外に何か取り組まれているのかというお話については、県庁と連携して取り組んでいるものについて少し説明をさせていただきたい。

1つは、10年ほど前からスタートしているが、元気なコミュニティ特選団体という取組をしている。これは地域力の強化に取り組む県内のモデルとなるコミュニティ組織を元気なコミュニティ特選団体という形で認証していて、その取組についても広く紹介をしている。管内でいくと、大体50ぐらいのコミュニティが既に認証されていて、その中で具体的にどんな取組をしているのかということを紹介しているものである。

もう1つは新しい県民計画の中で新しい時代を切り拓くプロジェクトが11あるが、その中の1つに活力ある小集落実現プロジェクトというものがある。小集落の維持については非常に厳しい状況ではあるが、そういったものに対して第4次産業革命技術、ICT、こういったものを活用していかないと考えている。例えば、ICTによって遠隔の健康相談や高齢者の見守りなどができないか、あるいは地域の資源である空き家だが、遊休資産、こういったものをうまく活用しながら集落の維持ができないだろうかということ、今県庁各部あるいは各広域振興局が集まって研究会を立ち上げて、議論をしているところである。どこかの地域に特定のモデルみたいなものを作って、それを全県に波及させていくような、そういった視点で今研究会を立ち上げて、コミュニティの維持について検討をしている段階である。数年かかるのかと思うが、ここは非常に力を入れて取り組んでいきたいと思っている。

それから、研修会の後の、その後のフォローについては、確かに研修会をして、その後に管内8市町の担当者と色々議論をしているわけだが、その中で研修会の成果を実際に市町の方がコミュニティに入って行って、そういったものに何かしら貢献していくということが必要だと思っているし、定期的に市町と、関係者と担当者と話し合う機会があるので、そういう中でフォローをしていきたいと思っている。

私どもの方も、実際にコミュニティに入っていくということがなかなかできない部分もあるので、ある程度市町の皆さんにコミュニティの中に実際に入っていただいて、そして動いてもらうというこ

とが大事だろうと思っている。

それから、2つ目の工藤委員の御意見で、災害公営住宅の関係については、新しい住民が入ってくるとのことだろうと思う。例えば、移住・定住の関係の推進あるいは外国人労働者などもこれから入ってくるという中で、コミュニティの維持だけではなく、多文化共生的な視点もあろうかと思うが、やはり色々な課題が出てくると思っているし、工藤委員がお話ししたような事例も参考にしながら、様々なケースについて検討をしていきたいと思っているし、研修会のテーマなどにもそういったものを加えて実施をしていきたいと思っている。

それから、水本委員の御意見の関係については、なかなか難しいなと思っているが、県で平成30年度に実施をした「男女がともに支え合う社会に関する意識調査」の中で、男女の地位の平等感について、多くの場面で男性が優遇されている、と感じるという回答が依然として多数である。また、今後男女が社会のあらゆる分野で、もっと平等になるために重要と思われることは何かと聞いたところ、「偏見、社会通念、慣習、しきたりを改めること」という回答が53%ということで、これが最も多く、御指摘のとおりと考えている。また、前回の会議で交通安全母の会の見直しの話もいただいているが、県としても男女共同参画プランというものを策定している。この中で、制度や習慣、慣習、しきたりを男女共同参画の視点に立って見直していくことが必要であると明記しているので、県としては、6月のいわて男女共同参画推進月間のイベントや市町村職員への研修会などを通じて、幅広い世代への意識啓発に取り組んでいきたいと思っている。

#### 【五味座長】

工藤委員の御意見とも関連するが、震災があり、地域コミュニティをどう再建していくかという様々な取組がされてきて、そういったところからヒントが得られてくるということもあろうかと思う。

それでは、地域づくりについては2点あり、工藤委員、八重畑委員から御意見を願います。

#### 【工藤委員】

私の方はほぼ感想に近いが、ここに書いてあるとおりである。伝統工芸の全国大会は本当にすばらしい大会だったと思っているし、計画の中でもお話しされていたが、引き続き県としてそういう気運を高めていくような活動をしていただければと思っている。

#### 【八重畑委員】

ILCについて、出前授業などに取り組んでいくというような今年度の取組の説明があったのだが、すばらしいことを紹介するのもいいのだが、それと同時にリスクがあるということで、常に両方の面で見ないといけない。福島原発も進めるときはこんなことがあるとは誰も思っていなかったと思う。ILCに関しても、必ず誘致できるものではないと思うが、もしも誘致してこちらの方で工事が始まったときにはどういうことが考えられるかということも併せて、一緒に考えていくということをお話ししていただけたらいいのではないかと思う。

#### 【岩淵副局長兼経営企画部長】

最初に、工藤委員の方からお話があったが、伝統工芸あるいは食文化について、地域にとって非常

に大切な財産だと考えていて、海外の方もかなり高く評価をしているのかなと思っている。

そういう中で、例えばそういった文化と観光面が連携していくという中で、つながりを持つことで、さらに多くの方々に関心を持っていただくことも可能だろうと思っている。例えば伝統工芸や伝統芸能にしても知名度が上がる、あるいは伝統芸能だといろんなところで発表できる機会の創出にも繋がっていくので、そういう意味では委員の御指摘のとおり経済活動と繋がることによって、文化振興もさらに発展していくと思っているので、そのような方法で進めていきたいと思っている。

それから、I L Cの関係だが、御指摘のとおり、例えば自然への影響や研究施設として使用した後の取り扱い、そういったものについては地域住民にとっては不安要素であると考えている。県としても、そういった不安に対する回答については、ホームページで公表しているし、また住民説明会なども開催している。なお、建設に際して、現在スイスで運用されている研究施設CERN（セルン）の事例を参考に、環境への影響を十分に配慮した工法を検討することとしている。それからCERN（セルン）については、施設の入れ替えを行いながら60年以上使っていて、I L Cも同様に相当な期間に渡って運用されるのではないかと考えている。

いずれにしても、リスクについてもしっかり公表して、県民に説明をしていく必要があると考えているので、そのような方法で考えていきたいと思う。

#### 【五味座長】

それでは、ここまでで前半部分の生活分野に関する御意見を一通りできたかと思うので、引き続き産業分野に関する御意見に移っていききたいと思う。

それでは、まずものづくりに関して、工藤委員と水本孝委員から御意見いただいているので、願います。

#### 【工藤委員】

生産性について少し書かせていただいたが、中小企業は生産性が低いというのが現状課題になっているが、実際は中小企業は他の会社と交流がなかったりするので、自分の会社の生産性というのがどれぐらいかという評価はできていない。むしろ自分たちは今こんなに一生懸命やっているのに、これ以上どうするのだと思っている会社がほとんどではないかと、自社を振り返っても思っている。

とはいえ、上手にやられている会社もあるので、これが本当にベストの方法かというのは私には分からないが、例えば岩手県内の企業を客観的にこれぐらいの作業だったら、これぐらいの時間と人数でできているとか、そういった指標みたいな提案をすると、中小企業であってもここまでできるんだ、じゃあ、何か工夫してみようかと、そう思うような動機づけになるのではないかと思う。ただ、そこで止まってしまうと成長しないので、本当にその指標の提示が正しいかどうかは分からないが、中小企業が目標とできるような指標を上手く提示する方法を考えていただけないと思っている。

#### 【水本孝委員】

まず、中長期計画に対して単年度が取組があって、そこに対してはなかなか意見がしづらいので、どちらかという大ざっぱな意見であることをお許しいただきたい。

まず、人口問題が全てに関わってくると思うので、人口問題をバックボーンに考えて、持続的に地

域を守っていくためにはどう考えるかといったときに、国や他県よりも優れた取組をいかにやっていくかということが大切だと考える。

これは思いつきで書いたのだが、外国人労働者の受け入れと併せて、外国や外資系の企業誘致を積極的にジェットロ等と相談しながらやるべきではないか。

#### 【岩淵副局長兼経営企画部長】

指標の関係だが、確かに生産性については業種や同一の業種でも規模の違いによって大分違ってくるし、個々の比較でもその取組内容によってはまた違ってくるといことで、指標、目標を設定するというのはなかなか現状では難しいかなと考えている。ただ、御指摘のとおり何を目標にするのかということは確かに重要な部分であり、そこに関わる部分が何なのかということも少し含めて、今後研究をしていきたいと思っている。

それから外資系の企業誘致や外国人材の関係だが、やはり岩手県あるいは盛岡広域としての強みというのか、例えばIT産業の集積や今はヘルス産業の集積など、そういったこの管内の強みというものをまずしっかり生かしていくということが必要だと考えている。そういう中で国内外問わずそういう方向性で、そういったものに適合するような企業誘致を進めていく必要があると考えている。基本的には県、管内8市町、関係団体で構成している盛岡広域活性化協議会の中で広域的な視点で企業誘致を進めていきたいと考えている。

#### 【水本孝委員】

私は矢巾、岩手医大の関係にいろんな意見をしたいと思って書いたので、医療や健康と上手く観光を絡めてメニューを開発していただければと思っている。

#### 【五味座長】

ヘルスツーリズムということかと思うが。

#### 【岩淵副局長兼経営企画部長】

来年度、コンテンツづくりを進めていくが、その中にまさにヘルスツーリズムも含めて様々検討していきたいと思っている。例えば人間ドックを受けながら観光をすとか、そういったことも含めて検討をさせていただきたいと思う。

#### 【工藤委員】

岩手県出身の方で、現在東京の恵比寿で日本酒のバーをされている女性の方がいる。彼女は、日本酒とどぶろくもあるのだが、そこに食べ物をペアリングさせて提供することによって、お酒、食べ物それぞれ両方の価値を引き出すという仕事をされている。今年、酒造組合の青年部というところが酒サムライといって、日本酒を世界に広められるようなすばらしい人を表彰しようということで取組もう10年以上やっているが、その酒サムライの一人として彼女が選ばれ、そのお祝いの会を盛岡で開催した。彼女のお話の中で、彼女がそういう仕事をしようという相談をしたときに、親には全然認めてもらえなかったと。でも、ようやくこういう表彰を受けて、初めて両親にその仕事を認めてもら

え、そういう状態になって初めて自分の両親に育ててくれて本当にありがとうと感謝を伝えられたということを話されていた。

ここにいる皆さんの例えば息子や娘がそういった飲食業の仕事をするといったら、もしかしたら止める人が多いかもしれない、やっぱりまだ飲食業というのはそういう職種になっているのではないかと思う。まだ社会的に地位も低く、賃金もそんなに良くなくてみたいな職業として認識されているのかもしれないが、でも我々岩手の食産業を伝えてくれるのは、やはり飲食店でお客さんに直接お酒やおいしいお料理を提供してくださる方たちなので、そういう方たちの地位を高めていくような活動なしには、岩手県の食文化を高めていくのはなかなか難しいのではないかと思っている。いろんなアイデアや方法があると思うが、皆さんで知恵を絞って岩手県の食文化を振興していければと思っている。よろしく願います。

### 【五味座長】

以前から工藤委員の御意見の方向性はすごく大事だと常々思っているのだが、いかがか。

### 【岩淵副局長兼経営企画部長】

食産業については、本県の基幹産業として地域経済の牽引役と考えている。従って、そこを担う人材の育成というのも非常に重要だろうと考えている。御指摘いただいた部分、例えば食を文化の面から、あるいは工学的あるいは職人的な技術の面からというような話で、やはり産学官という枠組みの中で議論していく必要もあるのかなと思っているし、今後行政としてどういう支援ができるのかということについては即答できないけれども、非常に大きな検討課題と捉えている。

### 【五味座長】

それでは、続いて農業分野について、菅原委員から御意見を幾つかいただいているので願います。

### 【菅原委員】

少し環境のところにも触れるのだが、農業は食料生産だけではなくて環境保全というところで、ものすごく気をつけている方も多く、環境保全を考えた生産の仕方をしている生産者の方がすごく多い。そういった方たちを巻き込んで農業体験など学べる場所を増やしてもいいのではないかと思っている。自然というと森だけではなくて山と里、あと海まで繋がっていると思うので、農林漁業者を巻き込んでこういう学べる場所というのを増やしていただきたいと思っている。また、生産者の方たちも環境についてはすごく勉強していると思っているので、そういう方たちにも声をかけてもらいたいと思いを書かせていただいた。

次に、被害が増えている中で、私は希少動物だけではなくクマやイノシシ、サルといった動物が街の中に出てきているニュースがすごく多いなと思っている。そういった動物たちは本来どこに住んでいて、どういう生態系なのかなどをもっと皆さんに知ってもらわなければいけないのではないかと考えていて、こういう動物たちについて考えるイベントや勉強会があってもいいのではないと思った。

それから、「銀河のしずく」について、多分いろんなところでいろんな意見を聞いているとは思いますが、産地が県内全域になっていくとなると私も作っているのだが、品質的に安定したものが出せるの

かというところはすごく不安に思っている。岩手県はすごく広いため、マニュアルはあるけれども、やっぱりその土地ごとに土や気候、水などそれぞれ違うと思うので、ある程度地域を絞って生産していった方がいいのではないかと。やはり、お米を納品するとお米屋さんというのは、米をみただけで良い物か、あまり良くない物かというのが分かるようなので、安定した品質をどうやって保っていくのかというところがすごく評価が高いと思っている。

最後に、資料の中に子育て世代を対象とした「親子 de ごはん教室」の開催というのがあるが、まずこれはいつ、どこで、誰がやるのかというところが気になって、そういうイベントのときに県の方たちだけではなくて、生産者の方も一緒に行ってPRするというのも必要なのではないかと思書かせていただいた。

### 【前田技監兼農政部長】

農業の関係だが、菅原委員のお話のとおり、環境を含めて農業の持つ多面的機能のところは、農業者自身も自負心を持って取り組んでいると考えていて、これまでも国の環境保全型直接支払制度というものがあって、そういったところを活用しながら住民が主体的に取り組まれているところがあり、お手伝いしてきたところである。例えば、盛岡地方ではもち小麦の研究会といったところが消費者や子供たちと一緒に勉強や体験をするということに取り組んでいるし、あるいは各地の田んぼアートについても、普及センターを中心として運営や技術的な面でお手伝いしてきているので、こういった観点から、さらにそういう団体やグループがやろうというところに対しては、今後も引き続き全面的にバックアップをしていきたいと考えている。

それから、「銀河のしずく」については、いろんな御意見がある。ブランド化に向けて品質の均一化ということが重要なことはそのとおりである。ただ、来年産に向けてもう少し欲しいという要望が来ているので、産地とすれば、そこにしっかりと供給していくということもブランド化を図る上で、また産地の信頼という意味で重要な課題であり、栽培適地を条件を踏まえて実証してきたことも踏まえて、栽培地を拡大し、結果的に県南の方にも栽培する地域が少し広がっている。そういった中で、最終的に消費者に対してはしっかりと「銀河のしずく」として、品種の特性を備えたものを出していかなければならないし、出荷するときの厳格な基準があるので、それをきちんと守りながら県全体として安定した品質の「銀河のしずく」を出していくというところに力を入れながら、さらにブランド力を高めていきたいと考えている。その点については御理解をいただきたいと思う。

また、PRイベント等の関係で、我々も子育て世代を中心にターゲットとして、例えば保育園や幼稚園に行き、いろいろ勉強の機会を設けたり、消費者あるいは親子フェスタというところに出かけて、今までも、今年についてもPRしてきたところである。いずれ生産者の方々が実際に自分たちの想いを消費者に伝える、あるいは消費者の方々の意見を精査しながら聞く、非常に貴重な機会のため、これまでも首都圏を訪問したりする際には生産者の、特に役員の方が中心ではあるが、一緒にPRしてきたところである。これは引き続きこういった機会を増やしていくように努力していきたいと思っている。

### 【菅原委員】

「銀河のしずく」の生産地については、実は今年度は盛岡付近と、それから宮古の方での作付とい

うことで聞いていたが、県内に広げてもいいけれども、やはりランクはつけた方がいいのではないかしらと思うし、あとは県南の方まで作付が行ってしまうと、では「金色の風」はどうなるのだろうかというのがすごく気になっていて、県南だけ2つのブランド米を持っていてずるいなというところが少しあった。

### 【前田技監兼農政部長】

そこも色々とお意見があることは承知しているが、例えば奥州地域で「金色の風」を作る場合にも、作る地域は一定の標高以下のところで十分な温度を確保できるところに限定して作っているし、今度新たに「銀河のしずく」を少し南の方に作る場合でも、例えば中山間地域に近い方とか標高の高い地域があり、そういった地域では「銀河のしずく」を、その特性を十分発揮したものとして作る上で大丈夫だという今までの実証結果もある。そういったことをしっかりと踏まえ、全域どこでも作っていいということではなく、適地をしっかりと限定して作ることにしている。最終的にできたものはしっかりと厳しい基準で検査した上で基準を満たすものだけを出荷するので、そういった中で品質の均質性みたいなものは担保して進めることとしている。

地域によっては、米の特性というのは若干違ってくるところはあるが、あまり差が出ないような作り方、地域で最終的な検査、こういったものでしっかりと均一性を担保していきたいと考えている。

### 【五味座長】

ここで少し休憩を入れたほうがいいのかと思うので、後半の進行を少し事務局とも相談させていただくとして、5分間ぐらいの休憩とさせていただきます。

(休憩)

### 【五味座長】

そろそろ再開させていただければと思う。

今までのようにいただいた御意見を1つ1つ全部やっていると時間が来てしまいそうなので、やはりここは特にもこの場で議論したい、したほうがよいとお考えである御意見等があったら手を挙げていただいて発言いただければと思うがよろしいか。

八重畑委員からいただいている幸福度調査については、この後の総合戦略とも関連があり、実は私は災害のことについて、昨今毎年のように災害が確実に起きているような状況で、もう少しこの中に計画を盛り込まなくて大丈夫なのかなと個人的に思ったりもしている。

### 【八重畑委員】

幸福度調査については、後でお話があるということなので、何千人に聞くというようなことは新聞に出たりしていたので、それはよしとして、三陸鉄道のように災害はとにかく繰り返される。環境がかなり悪化していくのを止めることができない。という状況にあると思うので、今後のことを考えてどのように予算化していく方向にあるのかということを感じていたので、お聞かせください。

### 【岩淵副局長兼経営企画部長】

災害の関係については、今の御指摘のとおり、ここ最近を見ても平成 25 年の災害があった。それから平成 28 年、3 年置きぐらいのペースで大きな災害が発生していて、そういう中で県としてもいろんな県単独の補助金の制度みたいなものも新しく作っているのですが、いつ起きても十分備えができるように万全の体制というわけにはいかないのかもしれないが、しっかりとした体制というものを作っていく必要があるのかなと思っている。

国に対しての要望ということも、これはもう必要不可欠であるし、災害が起きた場合には迅速に対応していくということで考えている。

### 【八重畑委員】

森林税と言って 1 人 1,000 円ずつ集めている。復興をするこれから先のことを考えて、そういった県独自の事業でお金を集めるという例もあるので、これから先の復興を考えたときに何かそういう独自の手当てというの也能きのかなというふうに思った。

### 【岩淵副局長兼経営企画部長】

参考にさせていただきたい。ありがとうございます。

### 【五味座長】

それでは、今一通り終わっていただいたということにはしたいが、これ以外のところで、やはりぜひこの点はということに関して御意見いただく時間を少しだけとりたいと思う。

狩野委員のほうから何かもし御発言あれば、よろしく願います。

### 【狩野委員】

少子高齢化が進む中で毎年本学には 18 歳から 25 歳の学生が 400~500 人ぐらいでトータル 2,000 人ぐらいの若い人達が来ているが、来ていただいても何割かは県外に出て行ってしまふ。大学で教育をしていて何とか地域にとどまって欲しいとは考えているが、結果的に、東京や仙台の企業の方の状況が良いとか、岩手から東京を目指したいというのは元々あるのが現状だと思う。その辺をぜひ岩手に就労するように何かできないかとも思っている。

今日出席されている委員の方々は、それぞれの分野ではプロの方々だと思うが、例えばうちの学生が開発した商品が売られているとニュースになったこともあるが、そういう柔らかな発想、素人ならではの発想ができる。このような点で、大学からすると若さという武器があるので、活躍の場に参加できないかと考えている。また、今も地域振興の授業をやっていると今まで知らなかったことに関心を持ったりすることがあるので、そういう関心について大学と地域と協力して何か考えていければいいと思っている。

それから、私自身は社会福祉の教員をしているが、この中で農福連携みたいな話がある。障がい者というどうしても何もできない人というふうに思われるのだが、障がいがある人というのは障がいがある部分はすごく苦手な部分がある。そしてできることは物凄く丁寧に仕事をしてくれる。そうすると、ここでは農福連携みたいなものがあり、一部分、福祉就労となってしまうものがあるのだが、



一部でも普通の就労にさせていただければ障がいのある人にとっても賃金の向上になるし、会社の経営の方からいけば、それなりの支払いで済むところもある。その辺のところをぜひ理解していただくとよいと思っている。

親が横浜に住んでいるのだが、「岩手のお米を買っている」といつも言っている。また、交流している東京の障がい者の事業所でも岩手の農産物を売っていて岩手の農産物は非常に評判がいい。もちろん本来の流通ルートがあるのだけれども、障がいのある人たちの事業所が独自のルートで入手して販売している。そしてつながりのできた障がいのある人たちが岩手県に生活体験に来たり、産直でたくさん農産物を買ったりしている。グリーンツーリズムの分類になると思うが障がいのある人たちが岩手県での農業体験を通して得た農産物を売って障がいのある人たちの収入の向上につなげることができるということを実感している。どの項目に当てはまるのかわからないが、学生、障がいのある人、高齢者等プロとは言えない人たちが、上手く活躍してもらうことができるとその人たちの幸福度が上がると思うし、地域の活性化にもなるので、その辺をぜひうまく情報交換しながらやっていけたらいいのではないかと思う。

大学の持っている特性をぜひ、特にこの圏域には大学が集中していてトータルとして大勢の学生がいるので、地元に残ってもらえるようなことと併せて施策に少しでも関わるようなことができればいいのではないかと思っている。

#### **【岩淵副局長兼経営企画部長】**

県内の高校生にも大学生にも県内で働いていただきたいと思っていて、地域志向型を目指して、局も大学とも連携して様々なキャリア教育や、あるいは企業さんとの交流など色々なことをやっている。そういうものをさらに工夫をしながら取組を進めていきたいと思っている。

#### **【五味座長】**

今の点と関連して、いただいていた意見では21番、22番の臼井委員、それから平野委員からの御意見も少し関連している。より具体的に働いた後のイメージができるような場の提供であったり、アルバイトを通じた将来へのビジョンみたいなものだとということが御指摘されていたのかなというふうに思う。

#### **【前田技監兼農政部長】**

農福連携というお話があったので、これは私どもも数年前からそういう取組をやっていて、特に地域によって取組の差があり、実はまだ盛岡管内はもう少し取り組まなければ、しっかりしなければならないと思っている。課題は障がい者施設あるいは指導員の方々が、農業は障がい者施設利用者の方からどういう作業を求められているか、あるいは農家のほうからすればどういうことができるのかというところが、まだ相互に理解が不十分なので、そういった実際の体験をしてみる、お互い交流してみるという機会をどんどん増やしていかなければならないと思っている。社協の方のコーディネーターもいるので、そういった方々のお力をお借りして、どんどん体験の場みたいなものを増やしながらマッチングを進めて1つでも2つでも増やしていきたいと考えている。

### 【山屋委員】

人口減少のところが一番心配になっていて、その中でも特に残念なのが自殺の問題だと思う。そこで、前回は自殺リスクの高い人という形でセクシャルマイノリティの方々と、あと避難者の方々の話もした。ぜひ今度の健康づくり推進の中のプログラムの中にLGBTのことを理解する項目と、あとは避難者の方、被災者の方のものを入れていただければと思う。復興は、先ほど工藤委員のお話にあったように収束を迎えていく方向であるが、心のケアはこれからである。あと事例としてセクシャルマイノリティの方で、盛岡近郊で「あそこの相談機関に行ったけれどもこうだった、こちらの相談窓口に行ったけれどもこうだった」という苦情を一覧表にして、「だから私は死にたい」、という手紙を書き、相談窓口に置いている方もいる。また、ある病院に行ったら、その病院でもLGBTへの知識と理解がなくて、「そういう人いるんだね、ちょっと興味あるから診せて」というお医者さんがいて、それでまた傷ついてとか、専門機関や行政の窓口の理解と知識がないことでさらに苦しんでいる。そういう話をこの前医師会の方にしたら、そういうことがないような勉強会と、今度是对応できる機関一覧表みたいなものを作るというお話になり、少しずつ進んでいる。県央部近郊だといろいろな相談窓口に行くことができるので、だからこそ新たな対応が求められたときに同じような問題意識、危機意識を持った勉強会をしていくというのが大事かなと思うので、「被災者」と「LGBT」をできれば来年か再来年の項目の中に、自殺対策の中にぜひ入れてほしいと思う。願います。

### 【渡辺保健福祉環境部長】

自殺対策については、お話しいただいたとおり追い込まれる場合に、さまざまな方向から追い込まれている方がいて、それで追い込まれることのないように対応を進めているところだが、LGBTについては新しい計画の地域の計画の中にLGBTの方も含めて、そういった方々も社会の中で生きやすくしていけるというような取組を進めることになっているので、今回の資料の中にはLGBTの言葉は出てきていないが、我々の対応としてはもちろんそういった方々も含めて考えていきたいと思っている。

### 【五味座長】

それでは、議題の1番、来年度の取組方向に関する議論についてはここまでとさせていただきます。議題の2番、その他の次期ふるさと振興総合戦略についての議題に入りたいと思う。

事務局の説明をお願いします。

### (2) その他（岩手県次期ふるさと振興総合戦略（素案）について）

（村上政策推進室政策監が資料2-1及び資料2-3に基づき説明）

### 【五味座長】

この次期ふるさと振興総合戦略は、第2期ということで岩手県でも策定をするということだが、まだ残り時間が少々あるので、この点、今御説明いただいた戦略に関連して疑問のある点あるいは直したほうがいいのかということ等があれば、皆様から御意見、御質問をいただければと思う。いかがか。

### 【水本孝委員】

第1期をしっかりと検証して、第2期に生かさないということになっているが、第1期はどのように検証されて、何を変えているのかということが大切だと思う。

人口増加するための戦略が首都圏の若者たちに魅力的に映っているか、他県より岩手が魅力的に映っているかということをしっかり検証できているか。非常にユニークで、若者受けしそうな魅力的な情報発信をしている県があり、それから比べると少しおとなしい。皆さんはどう思われるか。

それで、もう1つは、やっぱり例えばKPIを見ても流出防止の数値目標はいいのだけれども、県外から岩手に移住してくる人口など、そういう目標もあっていいのではないかと思う。いずれにせよ、おとなしいのではないか。

あとは若者に対する情報発信の仕方、東京でうわさになるような、岩手が一番だとか、そういうものでなければならないのではないかなと思う。例えば具体的に思い切ったことをやるといったら、北国だから岩手に移住する人はスキーが好きな人ということで、10年間はリフト代とか全部持ってあげるよと、どこに行ってもフリーパス券をあなたに与えると、例えばそういったユニークな思い切ったことをやらなければ、もしくは沿岸被災地に復興のためにそこに移住した方、進出した企業はドバイのように無税にするとか、特区みたいな形で何とか国にお願いして試行させてくれというような思い切ったことをやっていかないと、国全体で人口が減って行って、岩手はいつもこの後進県の序列を守り続けていくのかということになるのではないかと思う。

### 【水本千恵子委員】

今の水本さんの御意見に本当に同感である。今私たちも地域づくりNPOを立ち上げて取組を行っており、県立大学の生徒さんなど若い人たちにも入ってもらい、いろいろ意見をいただくが、その中で私たちはどんな地域にしたいかといった時、若い人たちからはおしゃれで夢のある地域にしたいという声があった。60代や70代で「おしゃれな」というフレーズは出てこないと思う。岩手では、本当に素直でとてもいい子たちが育っているが、そういった子たちが、野球選手となった岩手県出身の方々を見ても分かるように、せっかくいい子を育てるのだけれども、世界に羽ばたいていってしまう。羽ばたくことはいいことだが、岩手にもっと魅力を持って、自信を持って、すごく素朴で素直な子たちが育つだけでも、ここに全くの魅力がないというのは事実だと思うし、その発信も下手だと思う。

若い人たちの声を聞くと、ここで育った子たちは本当に岩手が好きである。好きなものだけれども、自分たちに自信を持ってないとか、自分の住むところに自信が持てない、もっと魅力的なところがあるだろうと羽ばたいていくというところがあるので、もっともっと若い人たちに意見を聞くというのは難しいのかもしれないが、県立大学の生徒さん一人一人を見てもすごく熱い思いが伝わってくる。そういった学生さんの声を聞くとか、就職したばかりの人たちの声を聞くとか、そういった場をもっと持って、魅力的な岩手にしていってほしいなと思う。

### 【五味座長】

おとなしいという印象を変えるために若者の意見を直接的に取り入れる場を作っていくということかと思う。

### 【狩野委員】

前半の部分の続きになるが、学生もせっかく地元で育ててもらって、地元が好きで、地元就職したいと考えているけれども、東京など県外を見ってしまうことがある。本当はみんな岩手県に残りたいと思っているけれども、収入などの現実問題がある。今の学生や若い人は自分から考えて提案するというのはまだ少し難しいが、おもしろそうだと判断するとすごく情報をとるのが得意で、1回繋がるとずっと繋がってくれる。既存のものとは違った何かキーワード1つだけでも繋がるとずっと続くのではないかなと思っている。

ある委員会では委員を公募しており、学生に応募してもらえないかと言われている。委員というのは難しいかもしれないが、学生に委員会ではなくワークショップのような形式で意見を集めるようなものやってみると、最初はなかなか意見を言わないが、ある線を越えると面白い意見が出てくる。こういう委員会の場とは少し違うかもしれないが、意見を自由に言える場を作っていただければいいのではないかなと思っている。

### 【五味座長】

項目で言うと「岩手で暮らす」というあたりが関連してくるのかなとは思いますが、そこにもう少しそういった面も取り入れたらどうかという御意見かと思う。

### 【村上政策推進室政策監】

今回6番目のスライドで見ていただいたとおり、「岩手とつながる」ということで、岩手とつながる人たちの関係を強化していくために、新しい施策を盛り込みたいと思っている。特に関係人口拡大戦略や、いわてまるごと交流促進戦略みたいなどころでは、まさに今御意見があったような情報発信を強化してやっていきたいと思っているところであり、今のような御意見をいただくと、我々も自信を持ってもっと押し出していくべきだと思ってお話を聞かせていただいた。

また、若い世代についての御意見をいただいたが、特に人口の社会減に関しては18歳、それから22歳前後の進学、就職期の社会減というのが非常に大きくなっているのも、私どもとしてもそこがターゲットだという意識はすごく強く持っている。もちろん若い皆さんに選んでいただけるような産業を作ったり、あるいは魅力ある企業を紹介したり、企業のほうに魅力あるような取組をしていただいたりといったことがすごく大事だと思っている。スライドの13に若者・女性活躍支援戦略というのを盛り込んでいて、項目の2つ目に若者活躍プラットフォームのあり方や活動を発信する場の提供などの若者の交流やネットワークづくりみたいな取組もさせていただき、今いただいたような御意見もあるので、ぜひこういうところに力を入れて取り組んでいきたいと思う。

御意見本当にありがとうございました。

### 【五味座長】

今関係人口という言葉が大分普及してきて、ただ何となく従来の交流人口とあまり区別されないで使われているというくらいが非常に強いのではないかと感じている。とにかくたくさんの人たちが岩手に来てくれればいいや、観光でも何でも来てくれればいいやということだと思うのだが、ただ、関係人口という概念の元々には恐らく、もっともっと私は岩手と特別な関係を持っているのだというよ

うな人を全国に増やしていったって、場合によってはその中から一部移住が行われていくということを目指すことではないかと思う。移住までしなくてもいいとは思いますが、その時におそらく不特定多数の誰かが観光に来るといよりは、固有名詞的に誰々さんというように顔と名前がちゃんと分かるような感じで把握できるというような仕組み、逆に岩手の関係人口はこういう人がいるというのをそれこそ図鑑ではないが、その人たちが全国でまたPRしてくれるような仕組みが大事なのではないかと思っている。

それから、岩手の若者も大事だという話もあったが、そこまで有名な人物ではなくても、固有名詞的に大事にしていくことが大事なのかなと思っている。

### 【工藤委員】

先ほど一番初めのところで少しお話しさせていただいたが、5番目のスライドの目標値の話について、これも平均値や全体的な数値としてしか捉えていないとなかなか上手くいかないのではないかと思う。出生率についても、例えば子供が全くいない人が1人持っても増えるし、3人持っている人が4人になっても増えるが、実際0人の人が1人にしたいというときの課題と、それから既に2人子供いるが、もう1人欲しいときの課題は違う気がする。

なので、先ほど渡辺部長からどれが理想的か、何人の子供が理想的か、ということは言えないとお話しがあったが、そういう意図で言ったものではなく、それぞれの立場や段階というか、もう一人持ちたいという時の課題というのは違うと思う。なので、もう考えられているかもしれないが、もう少し細かい課題に落とし込んで考えていただき、その上で目標の数値を持っていただくと上手くいくのではないと思う。例えば、人口の社会増減についても、確かに18歳から22歳の減少は大きいと思うが、例えば30代でどれぐらい戻ってくるか、40代でどれぐらい戻ってくるか、50代でどれぐらい戻ってくるかという、もっと細かくターゲットを分けて目標を決めて、それに対して取り組んでいくと、もう少し上手くいくのではないかと思う。そういったことが分かる計画だと、逆にこういう情報の受け手は、30代と言われると自分のことかと、40代なら俺のことかというふうに捉えやすいと思うので、細かくターゲットを分けた取組をしていただければと思う。

### 【村上政策推進室政策監】

最初に関係人口について、お話しいただいたとおり最近出てきた言葉であり、交流人口と何が違うのか、というようなお話もある。継続的に岩手県と関わりを持ってくれるような人たちというように捉えているが、例えば、交流人口ということで岩手に足を運ぶことがなくても、ふるさと納税みたいな形で関わっていただいたり、あるいは定期的に岩手県、または岩手県の市町村のメールマガジンみたいなものの購読者になっていただいたり、そういう方も含まれてくるのだろうというふうに思っている。関係人口を増やすことが即人口減少を止めるわけではないというのはそのとおりだと思っているが、いずれはそういう環境を作っていく岩手の魅力を理解していただきたいと思う。先ほど情報発信が必要だとの話もあったので、そういったところを強化していき、岩手の魅力を伝えることで将来的な移住・定住につなげていきたいということで、今回新しい取組として入れさせていただいた。

それから、子育て支援のお話もいただいたが、確かに色んな方々がいて、これから結婚される方々や既に結婚されて1人目を、あるいは1人持ったけれども、2人目どうしようかみたいなことをお悩

みになっている方、そういったものを含めて国もオーダーメイド型の子育て支援を進めていこうというようなことは方針の中で言っている。これから県としてどういう施策が考えられるかというのは検討していく必要があるが、今お話しいただいたような視点というのはすごく大事な視点だと思っていて、引き続き最終案に向けて検討させていただきたい。

御意見ありがとうございました。

#### 【八重畑委員】

満足度の話に繋がると思うが、若い方、若者、そういう話は終始しているような気がするが、66歳を過ぎてから生き生きと働いて暮らせるような、そういったことに対する対策も合わせて盛り込めれば良いと思う。特に男性に多いかと思うが、65歳までは働けるが、その後上手く仕事を継続して働く人以外には、これから何をしたらいいか分からないというような方もいると思う。そういう方に対して、言葉も内容もここには全然出てきていないような気がするので、少し意見として言わせていただく。

#### 【村上政策推進室政策監】

確かにお話しいただいたとおり、「岩手で暮らす」という3つ目の柱があるが、今言ったような話も含めて、岩手が魅力あるふるさとをつくっていくという取組の中で非常に大事な視点だと思っている。この概要版の中には書いていないが、保健・医療・福祉充実戦略というようなものを設けて、そういった高齢者の方が生きがいを持って生き生きと取り組んでいけるような、そういう施策についても盛り込んでいきたいと思っているので、いただいた御意見も踏まえながら最終案に向けて検討を進めさせていただく。御意見ありがとうございました。

#### 【八重畑委員】

「働く」を抜かさないようにお願いします。「暮らす」だけではなくて、「働く」。

#### 【村上政策推進室政策監】

そのとおりです。ありがとうございます。

#### 【八重畑委員】

60代、70代というのはすごく大事で、人生100年モデルを作る人たちだと思っている。ぜひ生きがいを60代、70代の人に作ってから隠居するように、そういう施策をぜひお願いしたいと思う。

#### 【村上政策推進室政策監】

申し忘れたが、「働く」の項目にもそういった取組を入れたいと思っていて、私も我がことであると感じながら戦略を進めさせていただく。どうもありがとうございました。

#### 【五味座長】

よろしいでしょうか。

大分時間が超過しているが、いろいろ御意見をいただけてよかったのではないかと考えている。それでは、以上をもって一通りの議題を終了とさせていただき、進行を事務局にお返しする。

**【石田局長】**

今日は長時間にわたりまして御意見と御議論をいただきまして、本当にありがとうございます。

今回来年度の取組をつくるに当たり、私の方からはキーワードとして、子供、IoT、AI、次の世代の技術、そういうのを意識して施策を作ってほしいと各部長には指示をしている。ややもするとどうしても我々は継続的な取組であったり、それから行政的な独りよがりの取組になったりするものが多くあるので、いずれ今日は皆さんから様々な分野について御意見をいただいたので、今後参考にしながら、また取組を作り上げていきたいと思っている。

本当に、今日は長時間にわたり、ありがとうございました。